

総合内科

部長 浅羽 宏一

はじめに

当科は救急診療に強い総合診療医育成を目指し2014年1月に杉本 和彦医師により総合診療科として開設されました。2015年2月には浅羽が、2019年7月から中山 修一医師が加わり、開設当初から、主に救急科（ER科）、内科の先生方と協同で、救急車で来院される患者さんや歩いて救急外来を受診される患者さんを診療し、学生や研修医の指導を行って来ました。2020年6月に杉本医師が退職され外科系の診療が出来なくなりましたが、2021年4月から消化器内科の市川 博源部長が総合診療科に移籍され、内科専攻医の岸本 浩一郎医師が加わったことで、内科系の総合診療を行う総合内科・総合診療科へ科名を改称し生まれ変わり、その後名称が長いので総合内科に変更されました。

外来診療

月曜日の午前中を市川医師が、水曜日の午前中を中山医師が、金曜日の午前中を浅羽が研修医の指導を行いながら救急外来で歩いて来院される患者さんの診療をしています。2022年5月からパートで金曜日午前中の救急外来をサポートして下さっていました福田 憲二医師（循環器内科専門）が7月に退職されました。2023年は1776名（昨年1874名）の救急患者さんを診療し、その内研修医を指導しながら診察した患者さんは242名（昨年167名）でした（図1）。紹介状を持たない患者さんは保険診療外に負担金が必要ですので救急外来受診の患者さんは年々減少しています。診断に難渋している患者さんのご紹介も開業の先生方から頂いております。昨年は169名でしたが2023年は258名と昨年比で1.5倍に増えています（図2）。これからもご紹介頂いた患者さんを我々が正しく診断し適切な診療科に院内紹介したいと思えます。

入院診療

2019年からは入院診療を開始しました。入院患者数は2019年には227名でしたが、2020年には270名、2021年には498名、2022年には589名、2023年は580名になりました（図3）。疾患別では尿路感染症、高齢者の誤嚥性肺炎、低Na血症などの電解質異常や糖尿病性ケトアシドーシスなどが多く、その他脱水症、蜂窩織炎、良性発作性頭位めまい症の患者さんなども担当しました。初期研修医が来てくれるようになり、科に活気が生まれています。4月は高本 琴子医師、竹森 菜咲医師、5月は竹森 菜咲医師、6月は井上 愛美医師、8月は野村 真緒医師、10月は松本 一真医師、11月は秦 剛志医師、12月は堤 明日香医師、1月は橋本 温子医師、2月は阿波谷 佳純医師（幡多けんみん病院研修医）、3月は山本 達之医師らと共に学び、働き、楽しく診療しています。高齢者医療を通じて転院調整など家族との密なコミュニケーションを学べると他の診療科では経験出来ないことが学べるので、研修は概ね好評です。

今後の展望

1月に町野 文規医師が近森オルソリハビリテーション病院へ異動になり、3月に長年総合内科を支えて下さった市川 博源医師が退職するなど、寂しいことが続きましたが、「病気を診ずして病人を診よ」をモットーとして、2024年4月からは中山修一医師が新たに部長になって、心機一転、今後も全人医療を行い、専門領域に拘らない医療を行います。

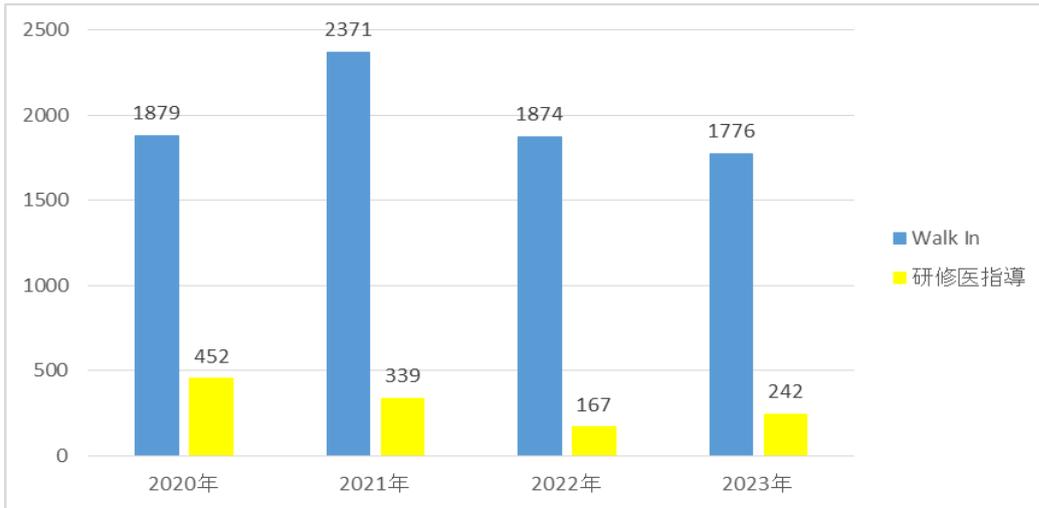


図1 総合内科 Walk In 外来

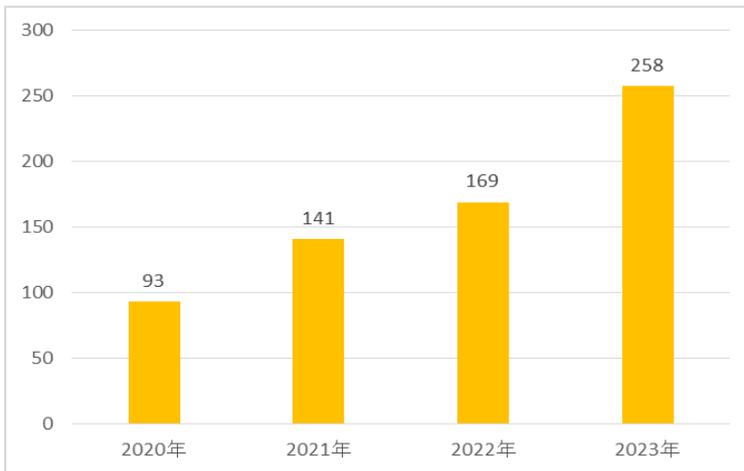


図2 総合内科への紹介患者数

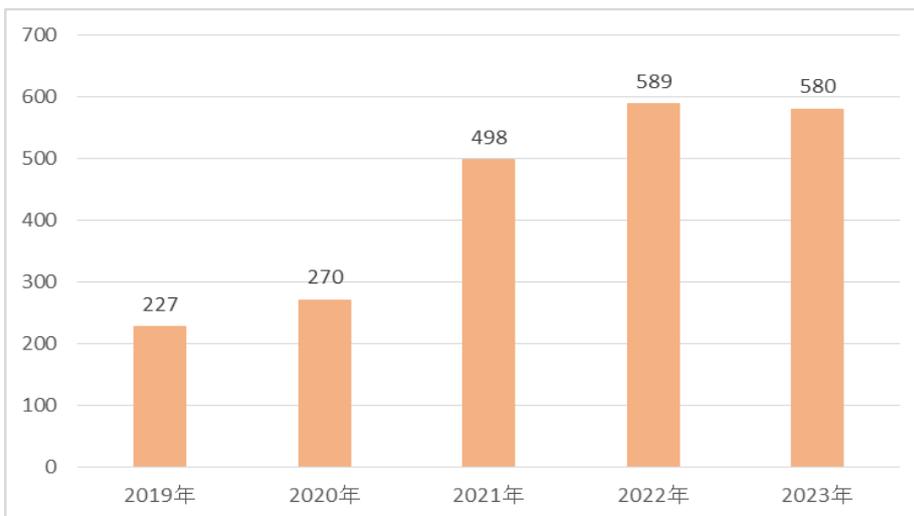


図3 総合内科・入院患者数

学術発表・講演会等

学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
医原性免疫不全に関連したリンパ増殖性疾患を発症した TAFRO 症候群	前田 理沙、谷口 義典、猪谷 哲司、大出 佳寿、山本博隆、小笠原 真沙実、堀野太郎、寺田 典生	第 67 回日本リウマチ学会総会・学術集会	4 月 24 日 ～26 日 福岡
コハク酸シベンゾリンによる薬剤性低血糖を来した高齢患者の 2 症例	岸本 浩一郎、中山 修一、浅羽 宏一、公文 義雄	第 96 回日本内分泌学会学術総会	6 月 1 日 ～2 日 愛知
SGLT2 阻害薬を使用中に正常血糖ケトアシドーシスを発症し心肺停止に陥った一例	小田 吏欧、中山 修一、浅羽 宏一	日本糖尿病学会中国四国地方会第 61 回総会	10 月 27 日 ～28 日 島根
A case of pulmonary nodule caused by Cladosporium species in an adult with diabetes mellitus successfully treated by surgery	Hiroyoshi Saegusa, Eri Fujiwara, Hiroshi Nakaoka, Masayuki Ishida	The 27th Congress of the Asian Pacific Society of Respirology	11 月 16 日 ～19 日 シンガポール
後天性無巨核球性血小板減少症への移行を認めた突発性血小板減少性紫斑病の一例	澤村 大造、縄田 英吾、上村 由樹	第 129 回日本内科学会四国地方会	12 月 3 日 香川
肺化膿症の経過中に二次的に合併した Bacillus cereus による肺炎と膿胸の一例	餌取 勇介、藤原 絵理、三枝 寛理、中岡 大士、石田正之	第 69 回日本呼吸器学会中国・四国地方会	12 月 16 日 ～17 日 徳島

論文発表・著書

タイトル	執筆者 共同執筆者	掲載誌 出版社	巻・号 ページ